

あわくら 歴史街道

塩谷の一覚塚
(仏石)と御林山

塩谷地区は江戸時代、影石村塩谷分として、幕府直轄の天領でした。塩谷深山は、当時天領の御林山として保護管理されてきました。この林山の入口付近に一覚塚(一角とも書く)と呼んでいる塚があります。建立年代も定かではなく、文字らしきものも見当たらないが、近年塩谷村の古文書(元禄16年「1703」)によれば、その当時既に仏石の地名が書かれているので、それ以前のものであったことは確かなようです。

伝承によれば、一覚という法師が諸国巡錫の途中にこの地で斃れているのを村人が懇ろに葬り、塚を建てて弔ったといわれています。塚の姿を凝視しているとなんとなくお坊さんの姿を彷彿と感じさせられます。

その後御林山には、一覚塚以奥に女人の入山が禁制され、之を破ると祟りがあるなどといわれ、また不思議な事故も度々起こっていました。塚の東側には清流深山川が流れ静寂そのもので冬季は特に厳しい環境の中で、齢を重ねた楓、杉等の大樹に覆われていて、此所に佇むと冷気さえ感じさせられます。長年供養する人も疎らとなっていたが、大正の末頃大茅の岡田治助氏が、この有様に痛く心をうたれ寺僧を頼み香華を供えてご供養をされたこともありしました。

その後昭和の初期、近所に住む農家の子供が頭痛と足痛で歩行困難となり、一覚様に願かけして参拝する中に数日経って頭痛も足痛も治ったという実話が、いつの間にか口伝で広がり近隣町村の人々が次々に参拝するようになりました。狭い山道には参拝者で長蛇の列ができるほどでした。参道脇には俄造りの店屋が数軒並び、線香、マッチ、ローソク、草履、駄菓子類の陳列、湯茶の接待も始まり一挙に賑々しい一覚様と変ぼうしましたが、所詮流行(ハヤリ)神様であった為か、2年程で参拝者も途絶えてしまい元の静かな一覚様となりました。

深山口附近に札幌の段という地名が今も残っていて、江戸時代御林山の制札が建てられていた場所といわれています。

塩谷御林山の反別10町歩、杉・桧・栗13,921本の記録あり。(文化12年(1815)東作誌より)



塩谷の一覚塚(仏石)

人の動き 平成17年3月1日現在

●人口 1,731人(+1) ●2月中の移動
男 822人(+1) 出生 0人 死亡 0人
女 909人(±0) 転入 3人 転出 2人
●世帯数 547戸(±0)

善意の窓 (村社会福祉協議会から) 平成17年2月16日～3月31日

おめでとうございます

引 谷 小松 隆人 様 長男建斗様 誕生内祝

お大事にしてください

中土居 山本 和憲 様 二女実佳様 退院内祝

大 茅 萩原 玲子 様 本人 退院内祝

引 谷 平田千代子 様 本人 退院内祝

谷 口 政久 馨 様 本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

中土居 春名 俊憲 様 亡妻邦子様香典返し

中土居 福原 一人 様 亡母稲田ユキ子様香典返し

今月の村税

軽自動車税

納期限：5月2日

納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。また、
□座振替の場合は残高確認など、よろしくをお願いいたします。
お問い合わせ先：西栗倉村役場総務企画課

若衆の白い禪熱く燃え
弥生月ひ孫に送る初節句
頑張って甘やかす子に裏切られ
頑張ろう孫の未来が見えぬまで
異常気象の白梅狂わせる
難民を思えば不況は耐えられ
地下足袋がぼつぼつ外へ出たくなり
合格の報せに母が先に泣き
(今月の佳吟)
笑い顔器量一枚以上に見え
頑張るぞ三日坊主が言うて去り
相性は凶でもいつしか共白髪
「過疎ばかり寄せて貧しい市が生まれ」日出夫
川柳マガジン誌笑いのある川柳特選(三)に入選した
句です。合併しない西栗倉が現状より少しでも良くなるような前進を期待したいものです。

辛 庄 静 幸 恵 庄 崇 日 静 吉 洋 し
雄 一 子 雄 美 子 一 子 夫 子 男 子 ず
雄 一 子 雄 美 子 一 子 夫 子 男 子 ず

四月句会 4月14日 あわくら会館
題「時事吟」日出夫選「希望」静子選
「無事」幸雄選「逃げる」庄一選

桜のころです。新人の参加をお待ちしています

川柳栗の実

三月例句会から